

2025 年 6 月 10 日  
第一工業製薬株式会社

2025 年 3 月期通期 決算説明会 主な質疑応答

(開催日：2025 年 6 月 3 日 場所：当社東京本社セミナールーム(リアル&WEB 配信))

Q1：電子・情報セグメントについて、上期から下期にかけて売上高は伸びているが、営業利益が伸びない理由について教えてほしい。

A1：販売数量は緩やかに増加しているが、ボリュームディスカウントや原材料価格の上昇を受けて、収益性が厳しくなっている。また、設備の増設を進めているが、原材料の入手が困難であることから、大幅な増産は難しい状況である。

Q2：環境・エネルギーセグメントの収益構造について聞かせてほしい。

A2：第 4 四半期より立ち上がった電池材料がセグメント全体を牽引しつつある。太陽光発電用の導電性ペーストは苦戦している。ウレタン材料も改善傾向であるが、黒字化は直ぐにはできない状況にある。

Q3：中期経営計画の発表時から、上振れとなった要因について教えてほしい。

A3：ハイエンドサーバ向け光硬化樹脂材料の需要が読みづらく、結果的に上振れている。

Q4：今後、成長が期待される製品は何かあるか。

A4：半導体用洗浄剤が少しずつ成長しており、一般的な洗浄剤より利益性の高い製品である。今後はハイエンドサーバ材料、電池材料、半導体工程薬剤の 3 本柱で増益を目指していく。

Q5：政策保有株式と TOPIX 残留に関する対応は、どのように考えているか。

A5：株主構成及び株価を意識した IR 活動を引き続き実施する。

Q6：人的資本関連の今後の取り組みについて教えてほしい。

A6：新中期経営計画では、経営戦略と人事戦略を連携させ、人材育成プログラムも合わせて推進していく。経済産業省の人的資本コンソーシアムにも参加し、価値創造ストーリーや KPI、モニタリングを通じて有効な開示を推進したいと考えている。また、社風や社員の意識変革を掲げ、チャレンジし、成果を出した人が報われる体制を整える。

Q7：調達や研究開発における DX への取り組みはどのような状況か教えてほしい。

A7：DX・生成 AI の導入は道半ばであるが、論文・特許検索において活用できている。エキスパート人材の育成も合わせて進め、人的資本の最大化を目指している。

以上